

RPPC メールマガジン 第 779 号

リサイクルポート推進協議会（令和元年 6 月 20 日）

■事務局からのお知らせ

NPO 法人山形県リサイクルポート情報センターのメルマガを添付いたしました。

～詳細は PDF をご確認ください～

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 港湾局がCO₂削減へブルーカーボン検討会

国土交通省港湾局は 6 月 11 日、有識者や関係者で構成する「地球温暖化防止に関するブルーカーボンの役割に関する検討会（座長・佐々木淳東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）」を設置し、初会合を開いた。

同日に閣議決定されたパリ協定に基づく温室効果ガスの排出・吸収に向けた長期戦略では、藻場等による「ブルーカーボン（沿岸域や海洋生態系に貯留される炭素）の吸収源対策としての可能性を追究することが盛り込まれている。

港湾局では今回設置した検討会を通じて、CO₂吸収量の測定・推計方策等ブルーカーボン生態系によるCO₂吸収効果並びに評価方法等をまとめる方針。

ブルーカーボンに関する検討は、みなと総合研究財団、港湾空港総合技術センターが設置した研究会が昨年、CO₂吸収量見込み量の試算結果をまとめている。それによると今後発生する浚渫土砂や製鋼スラグなどを活用して藻場等の造成を行うことで、2030 年には年間 204 万 t、最大では 910 万 t の吸収が見込まれる、とされている。

2. P I A N C、神戸市で年次総会開催

国際航路協会（P I A N C）の 2019 年年次総会が 6 月 5 日、神戸市で開かれた。新会長にフランシスコ・エステイヴァン氏（スペイン国）が就任したほか、神戸大会の決議として「アジアにおける海運・水運の振興と沿岸域における災害対策」が採択された。また 6 日には「技術セミナー」も行われ、アジアの港湾開発や沿岸域における防災・減災をテーマに、我が国を含む 10 人の専門家が講演した。

P I A N C は港湾・航路の技術的課題に関する調査研究等を通じ、水上交通の維持・発展を目的に 1885 年に設立された非営利国際機関。日本は政府委員として所属し、港湾局長が日本首席代表を務めている。

本部はベルギー・ブラッセルにある。4 年ごとに国際航路会議（コンGRESS）を開催するほか、毎年春に年次総会を開き当該年度の決議を行うとともに情報交換する。日本で年次総会が開かれ

るのは 2004 年の福岡大会に次いで
15 年ぶり 4 回目。

今回の神戸大会では日本首席代表代理として、浅輪技術参事官がウエルカムスピーチを行い、「神戸港は古来より瀬戸内海を利用した人流・物流を支え、日本の発展に大きく貢献してきた。1995 年にはM7.3 の大地震が当地を襲い、神戸港も甚大な被害を受けた。しかし今はこのように立派に復興を遂げ、経済の中核として我が国を支えるとともに豊かなウォーターフロントやクルーズ船が寄港する港となっている」と挨拶した。

3. 千葉県が来年度要望に第二湾岸道路を盛り込み

千葉県は「令和 2 年度国の施策に対する重点提案・要望」の中で、第二東京湾岸道路を軸とした新たな高規格道路ネットワークの早期具体化を盛り込んでいる。今後も港湾機能の強化や物流施設の立地に伴う交通需要の増大が見込まれることに対応した措置。

第二東京湾岸道路は国土交通省、千葉県、東日本高速道路による「千葉県湾岸地区道路検討会（事務局・関東地方整備局道路部計画調整課）が設立され、検討を開始している。

【港湾空港タイムス 6 月 17 日号から編集】

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：丸岡 裕人 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

安藤 彰 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：外山、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////

■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡ください。

開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡ください。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡ください。